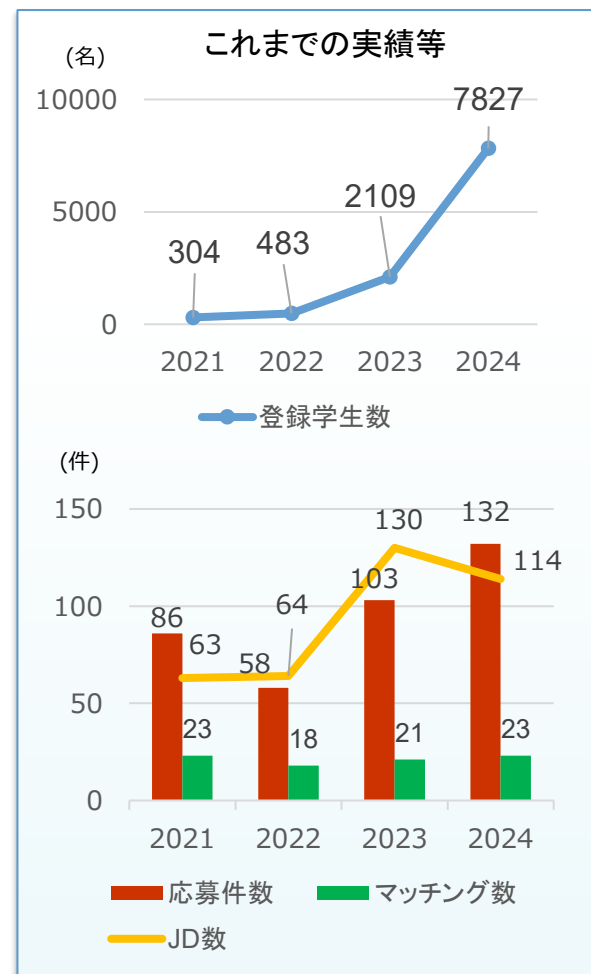
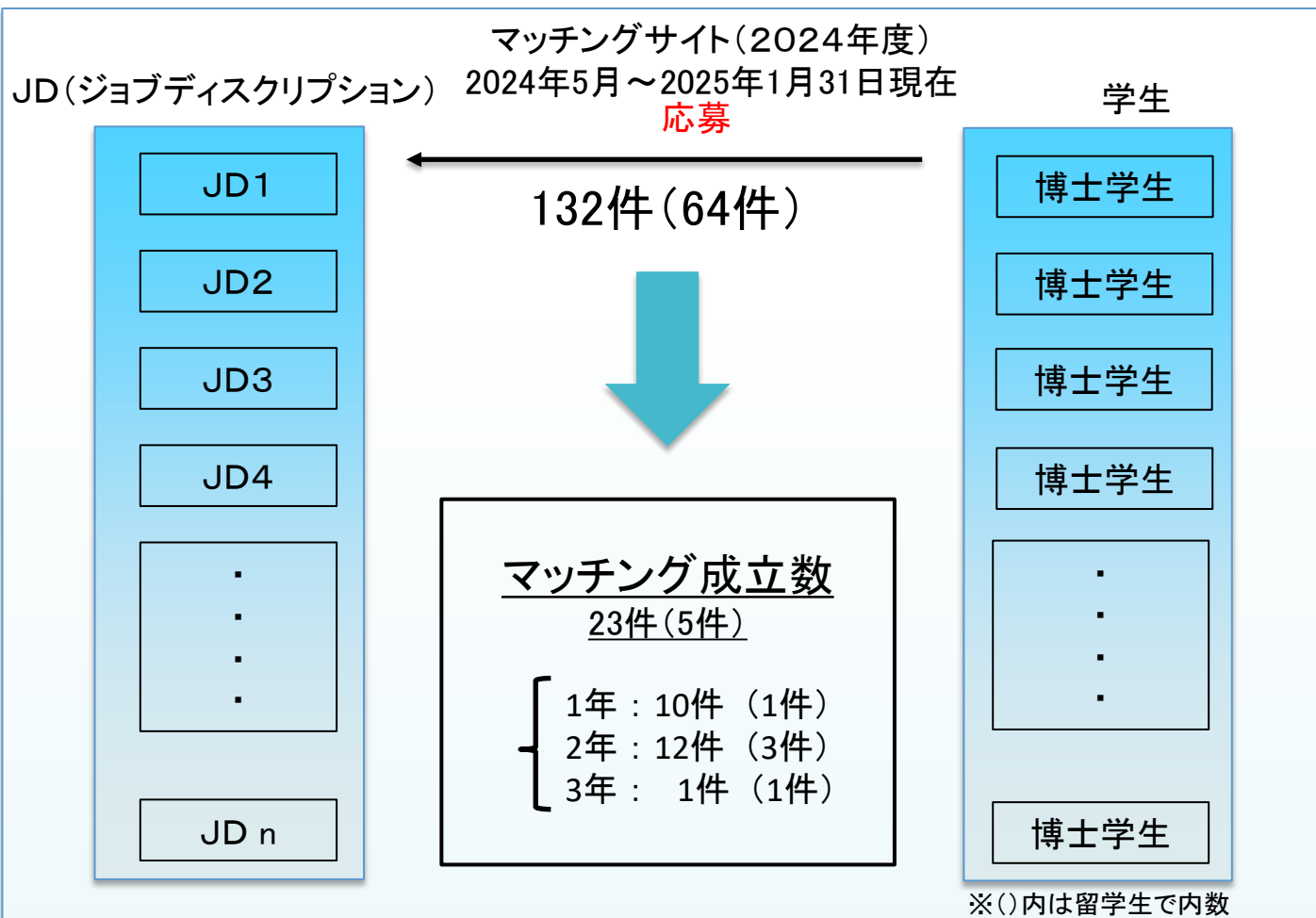


ジョブ型研究インターンシップ 2024年度実施結果について

ジョブ型研究インターンシップ 実績



提示・募集 19社
114JD (募集人員247名)

会員企業63社

学生情報登録 7,827名 (留学生 3,251名)

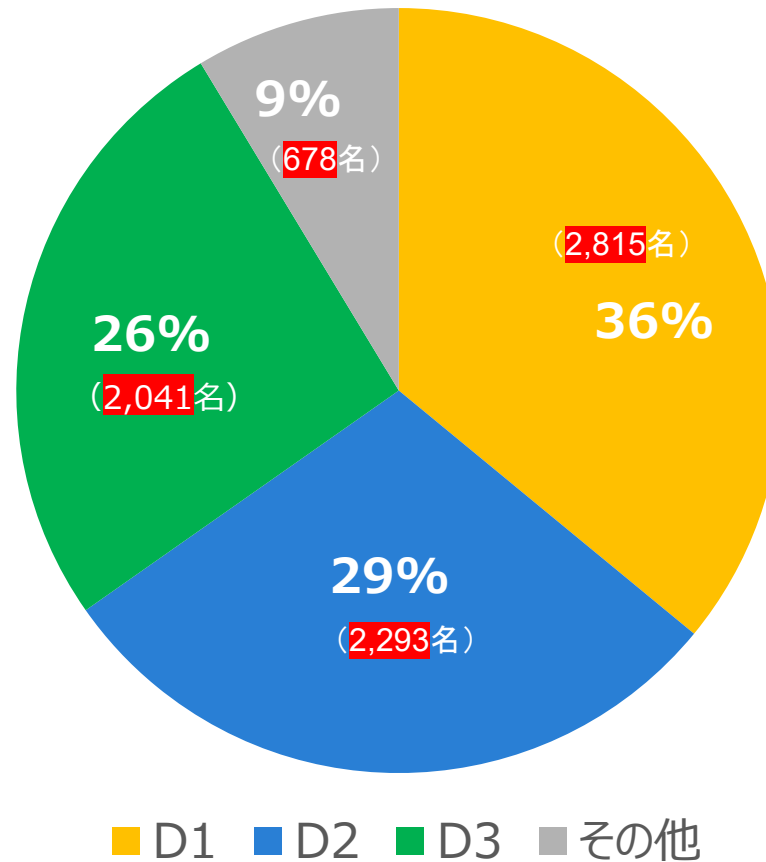
会員大学108大学

1年 : 2,815名 [36.0%]
2年 : 2,293名 [29.3%]
3年 : 2,041名 [26.1%]
その他 : 678名 [8.7%]

※2024年度実績は2025年1月31日時点

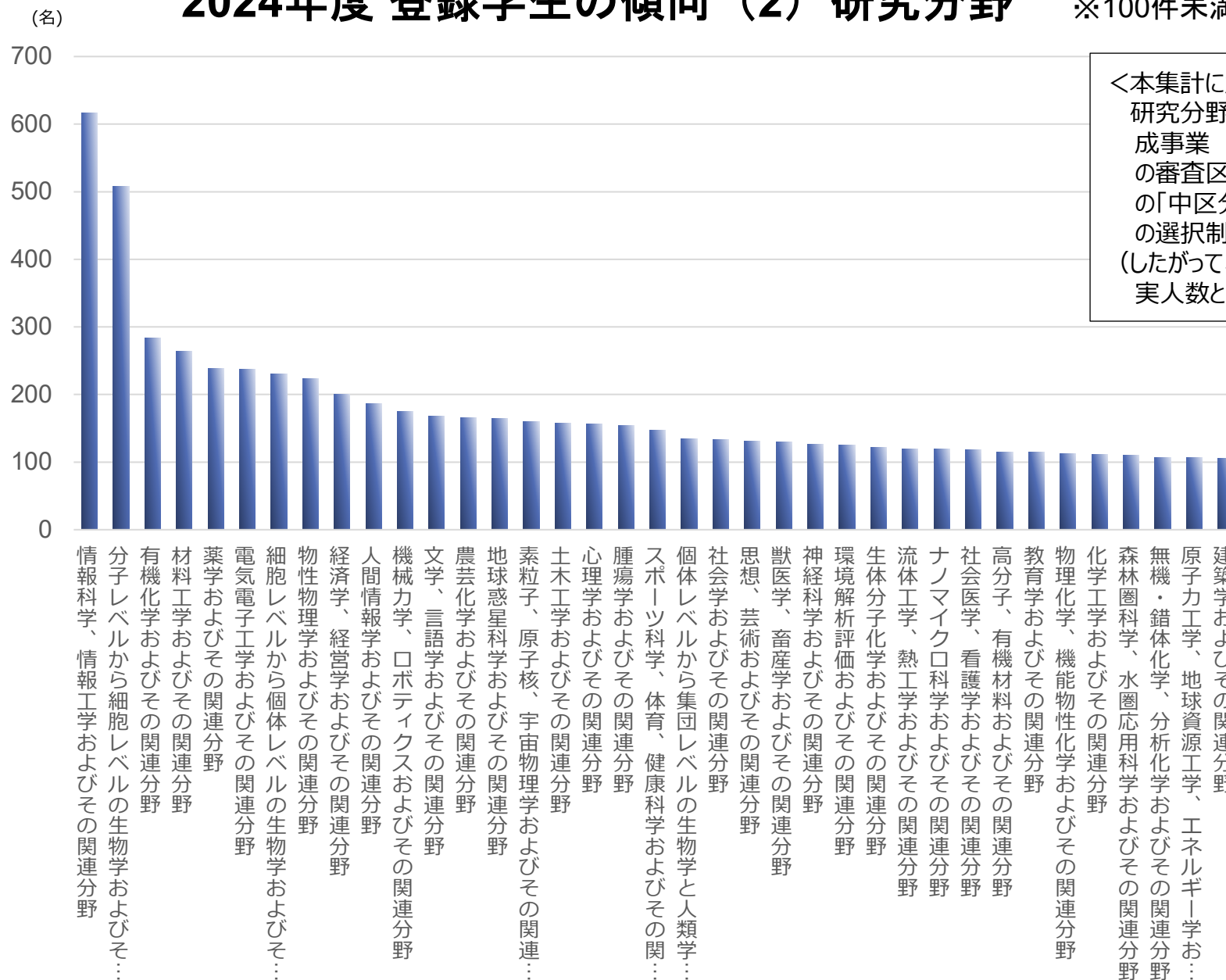
2024年度 登録学生の傾向（1）学年割合

◆ 登録学生において、D1またはD2の学生で6割以上を占める。



2024年度 登録学生の傾向（2）研究分野

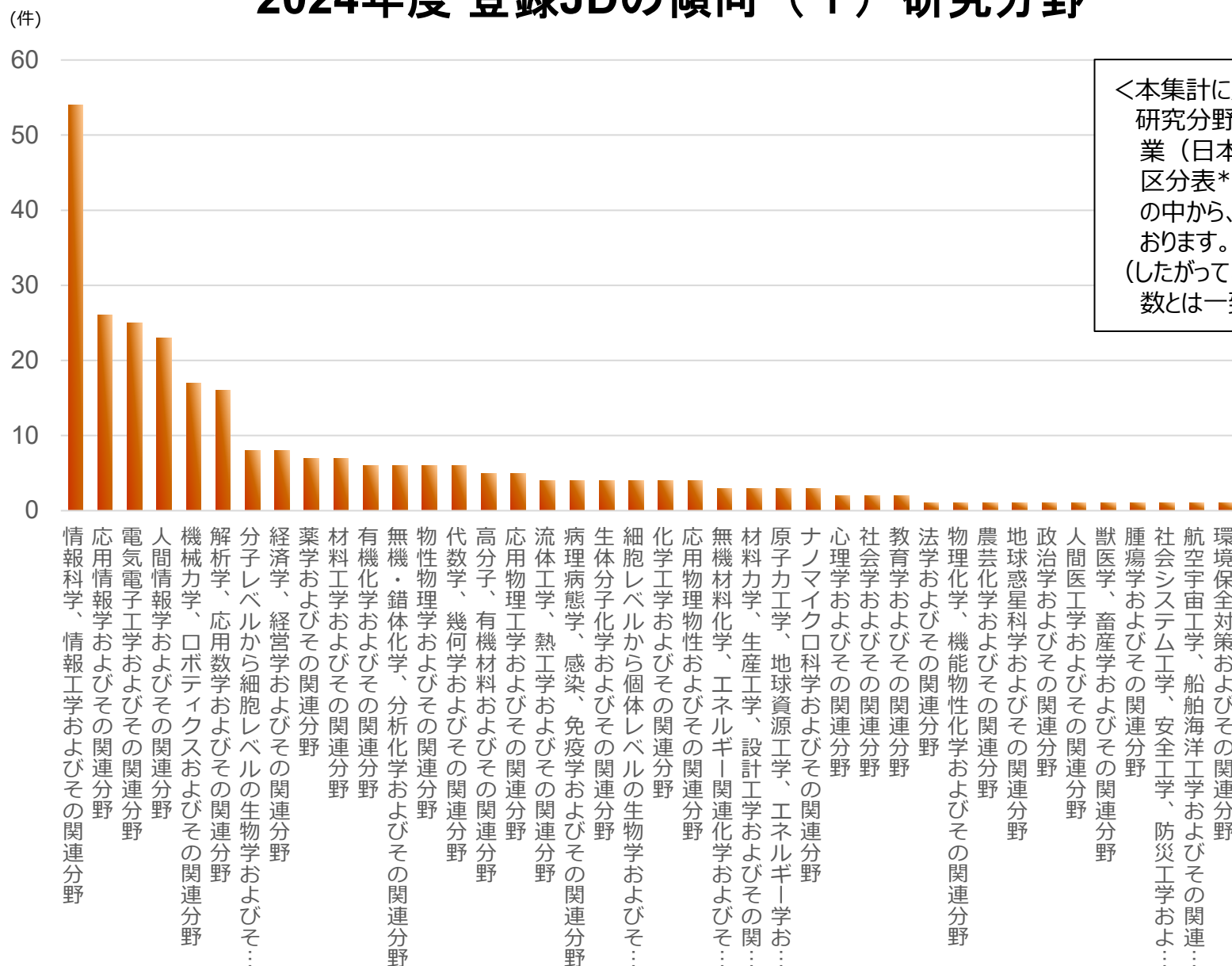
※100件未満は省略



＜本集計にかかる留意点＞
 研究分野は、科学研究費助成事業（日本学術振興会）の審査区分表*における64つの「中区分」の中から、3つまでの選択制となっております。（したがって、左表は登録学生の実人数とは一致しません。）

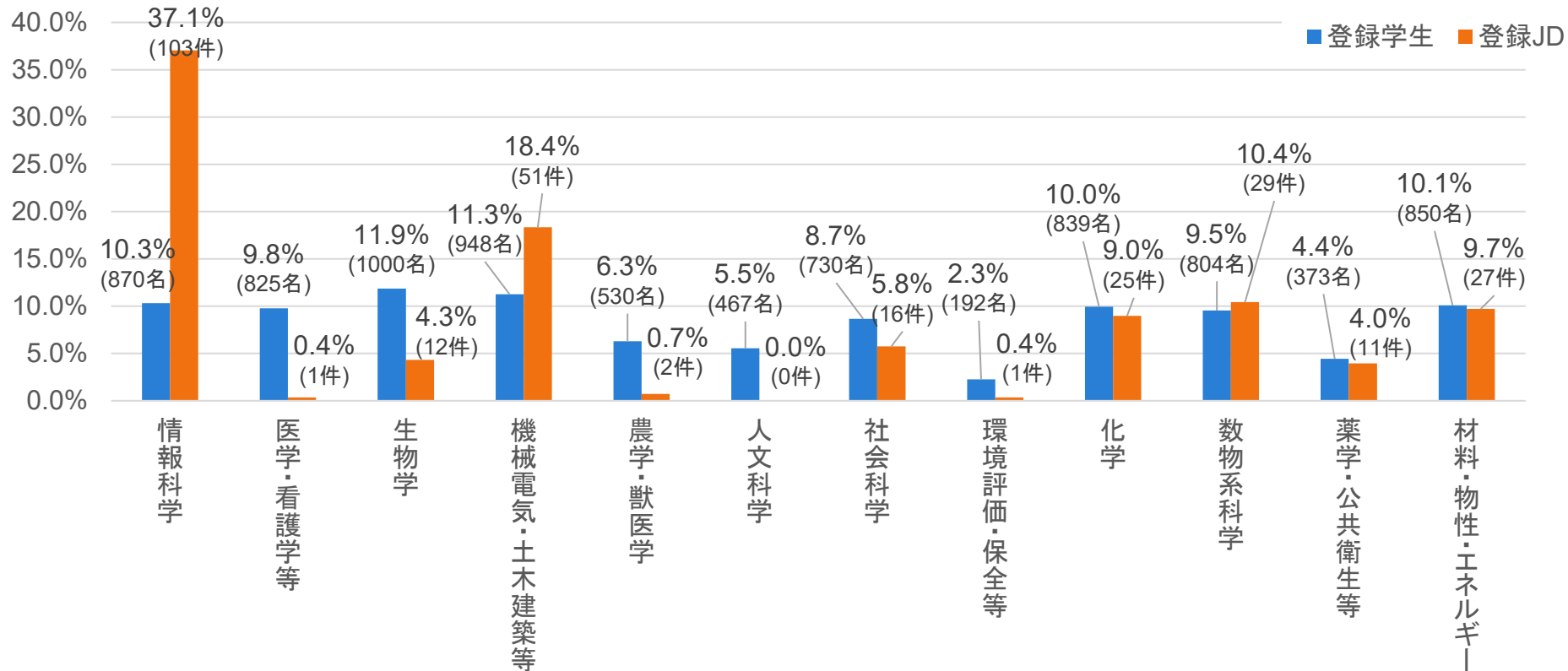
*科学技術・学術審議会学術分科会科学研究費補助金審査部会, 2024, 科学研究費助成事業 審査区分表, 日本学術振興会ウェブサイト, (2025年2月5日取得, https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html)

2024年度 登録JDの傾向（１）研究分野



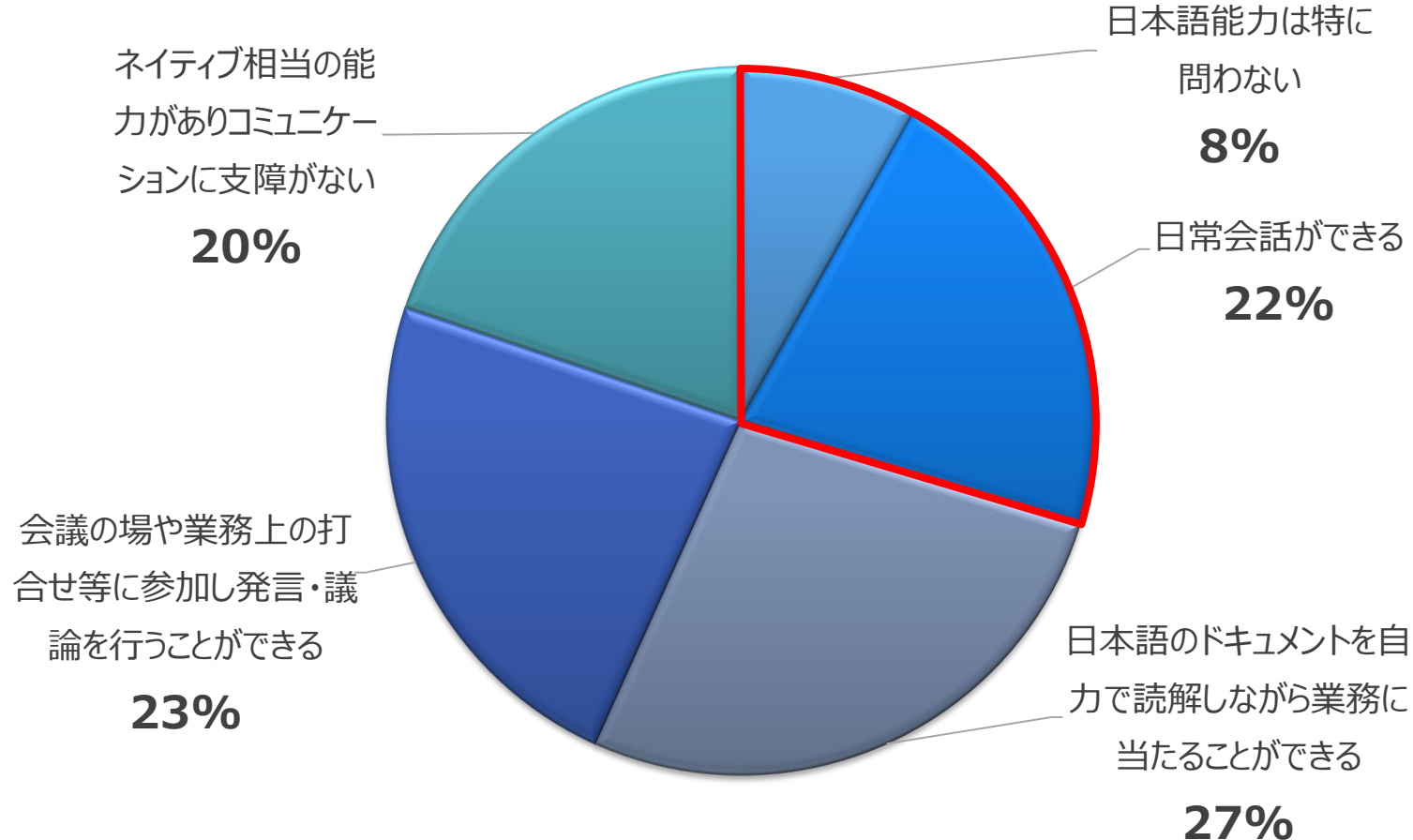
＜本集計にかかる留意点＞
 研究分野は、科学研究費助成事業（日本学術振興会）の審査区分表*における64つの「中区分」の中から、3つまでの選択制となっております。
 （したがって、左表は登録JDの実件数とは一致しません。）

(参考) 2024年度 登録学生と登録JDの研究分野における需給バランス



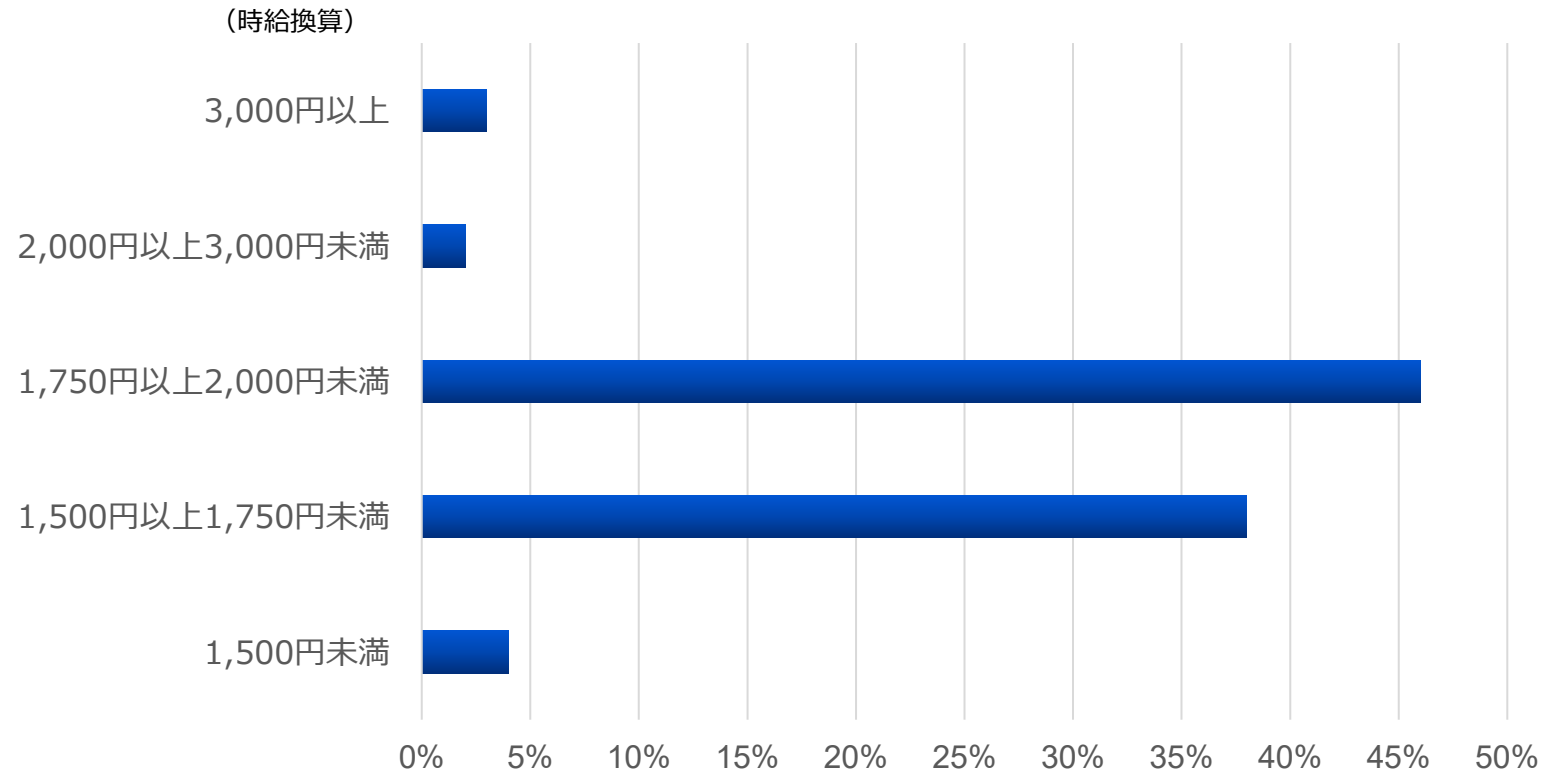
- ◆ 数値 (%) はそれぞれ「全登録学生に占める当該分野を選択した学生の割合」「全登録JDに占める当該分野を対象としたJDの割合」(カッコ内は実人数、件数)
- ◆ 研究分野は、科学研究費助成事業(日本学術振興会)の審査区分表における大区分で集計し、差の大きい順で整理
- ◆ 「情報科学」「機械電気・土木建築等」でJDの割合に対して学生の割合が少ない
- ◆ 「医学・看護学等」「生物学」「農学・獣医学」「人文科学」「社会科学」「環境評価・保全等」で学生に対してJDが少ない(無い)
- ◆ 「化学」「数物系科学」「薬学・公共衛生等」「材料・物性・エネルギー等」は大きな差が見られない

2024年度 JDの傾向（２）業務遂行において求める日本語能力について



- ◆ 「日本語能力は特に問わない」「日常会話ができる」というJDが30%と、高度な日本語運用能力が必要でないJDも一定数存在している。
- ◆ なお、英語併記で内容を記述しているJDは12%であった。

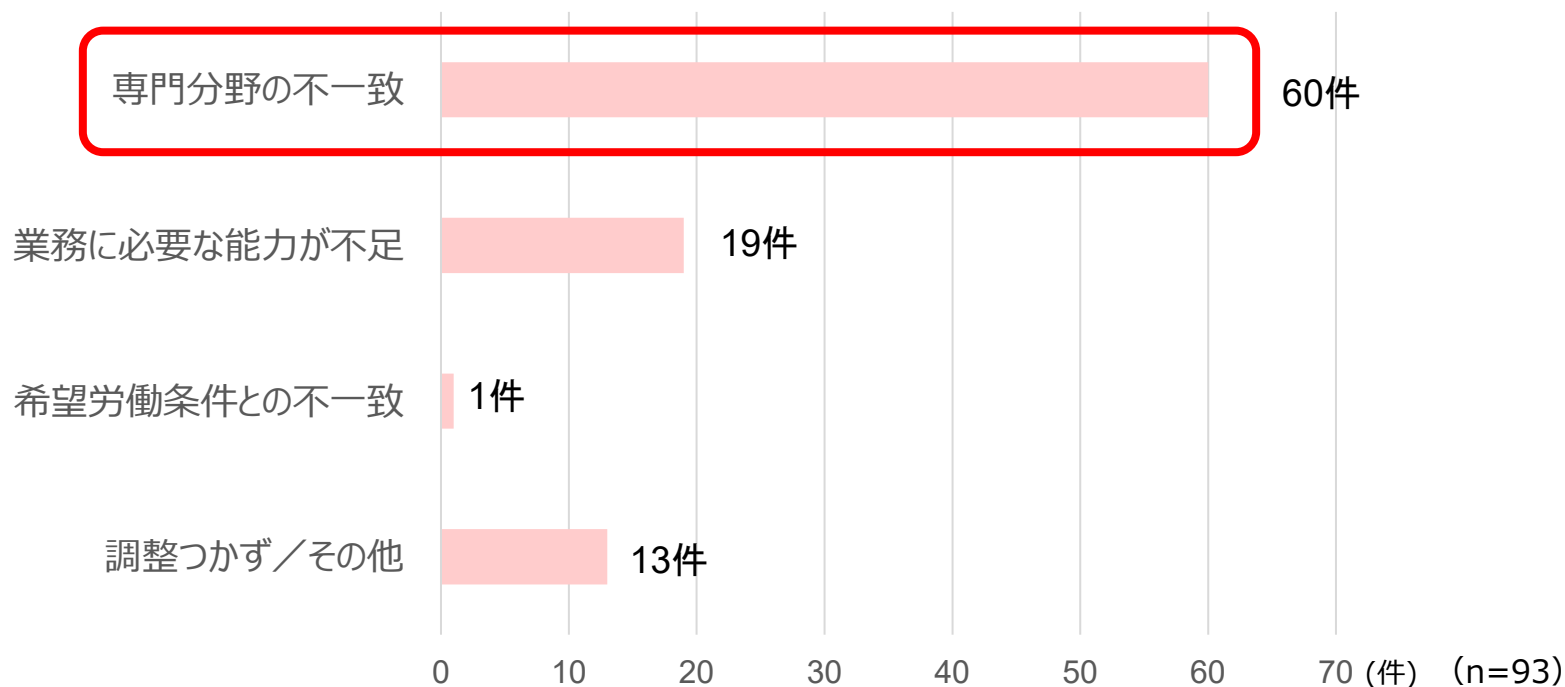
2024年度 JDの傾向（3）給与水準について



2025年1月末時点 (n=111)

- ◆ 1,750円以上2,000円未満で設定されているJDが最も多い
- ◆ 平均値は1,721円、中央値は1,800円
- ◆ 最大値は3,125円、最小値は1,113円

2024年度 企業の不採用理由について（マッチング不成立理由）



- ◆ 企業が応募者についての選考結果をシステム内で登録する際、不成立の場合はその理由を選択している。
- ◆ 不成立理由の6割強が「専門分野の不一致」となっている。
- ◆ 「調整つかず／その他」には募集時期以外や募集停止の直前で発生した応募が含まれている。

専門分野に捉われないマッチングの事例

(学生の専攻 × JDのプロジェクト名または概要)

数学専攻



量子インスパイアドコンピューティング技術

製造業
(機械系)

(大規模・高負荷計算を効率化するアルゴリズムの研究開発)

材料工学専攻



シングルセルレベルでの細胞活性評価方法の構築

製造業
(その他)

(細胞を精密に評価分析する方法の確立、活用)

地球惑星科学
専攻



接触熱抵抗の調査研究

製造業
(機械系)

(最近の研究動向を調査、測定可能な実験系を検討し、提案)

土木工学専攻



AI技術を用いた社会インフラ運用高度化の検討

製造業
(機械系)

(発電設備など社会インフラのより高度な運用方法の改良検討)

数学専攻



ソリューションビジネスをリードするデータサイエンティスト

製造業
(その他)

(データ解析アルゴリズム、センシングアルゴリズム企画・開発)

生命理工学
専攻

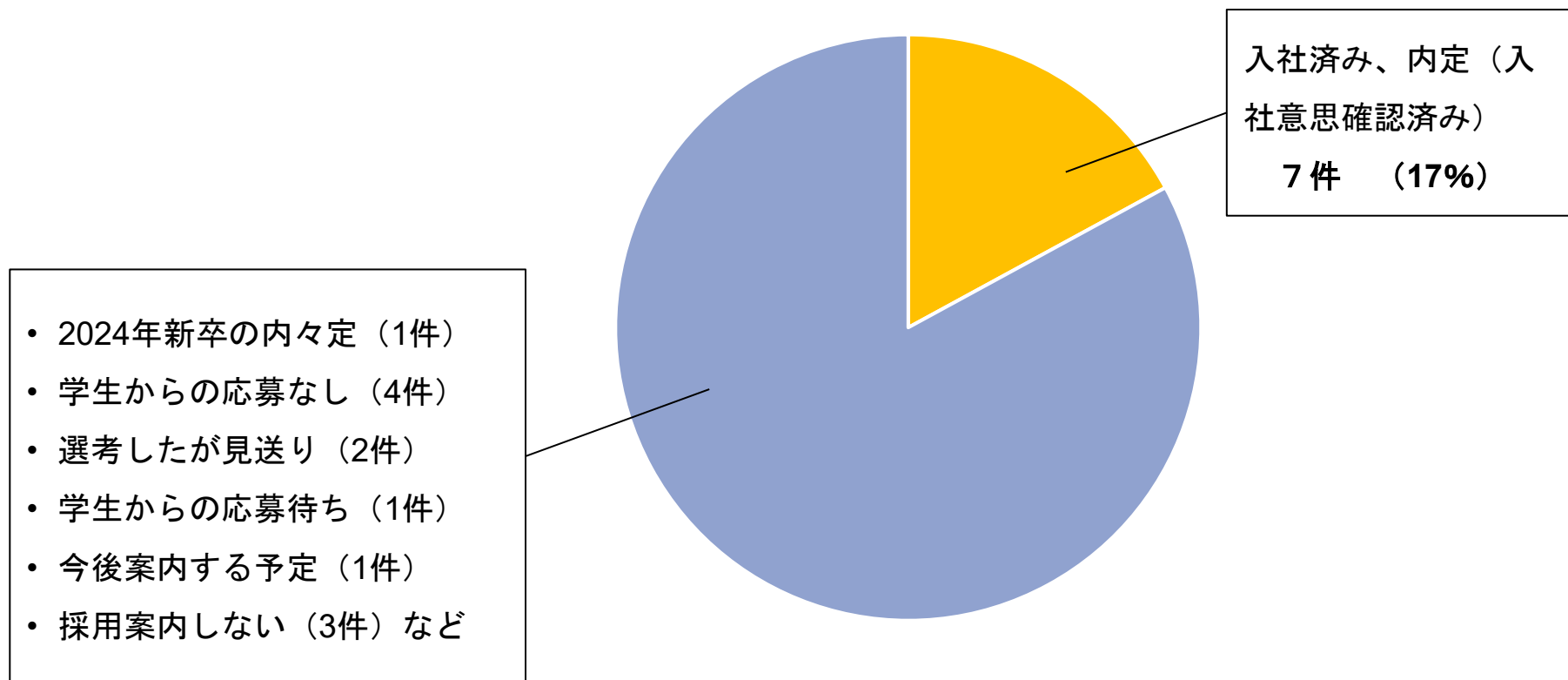


オミックス解析を一步先に進めるデータサイエンスの深化

製造業
(その他)

(コンピュータによる解析経験の無い方がマッチングした事例)

本インターンシップから就職（あるいは内定）に繋がったケースについて（2023年度調査）



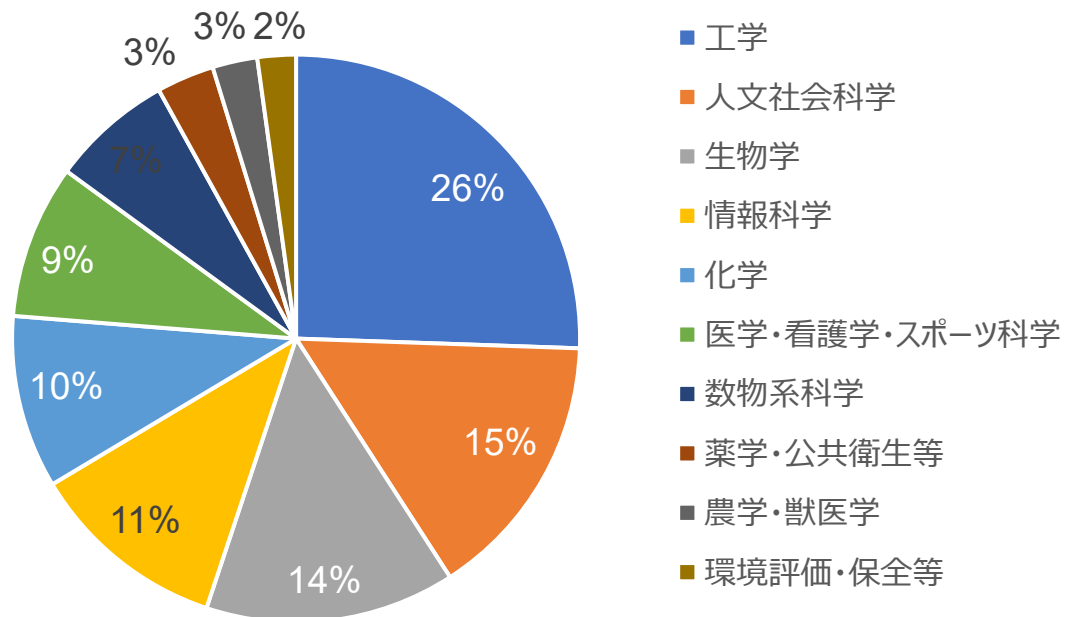
◆ 2021年度及び2022年度におけるマッチング成立案件（41件）のうち、7件が「すでに入社済み」及び「内定（入社意思確認済み）」となっている。

⇒ 「2024年新卒の内々定」を含めた場合、マッチングが成立してインターンシップを実施した事例のうち、20%が就職・内定に繋がっている。

2024年度学生中間アンケート結果概要

- 回答期間：2025年1月30日（木）～2月13日（木）
- 対象者：ジョブ型研究インターンシップ推進協議会の参画大学に所属する
博士課程学生 ※システム未登録者も含む
- 回答者数：274名（日本語 194名、英語 80名）
- 実施形式：オンライン
- 実施者：ジョブ型研究インターンシップ事務局（株式会社アカリク）

回答者の研究分野内訳 (n=274)

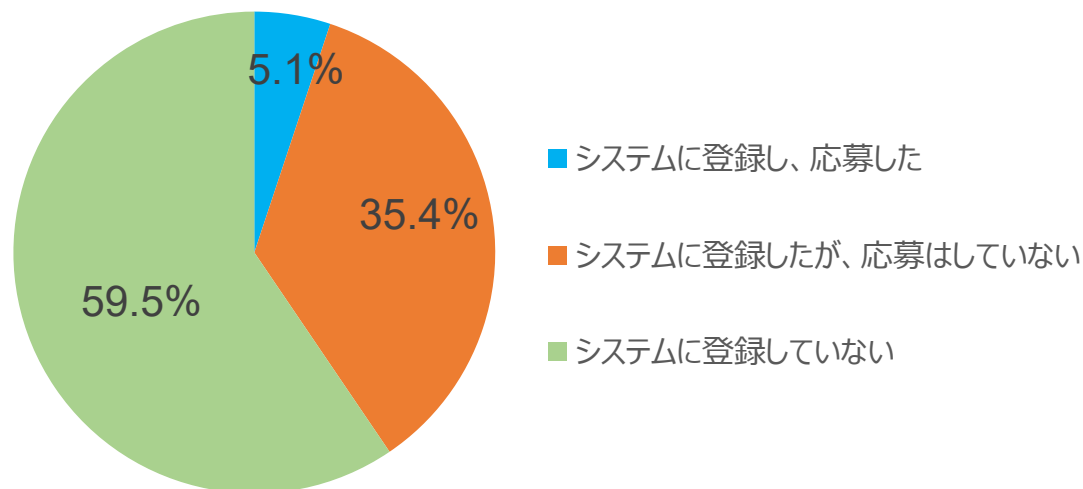


すべての回答者の方へ -登録・応募について-

【問 1】

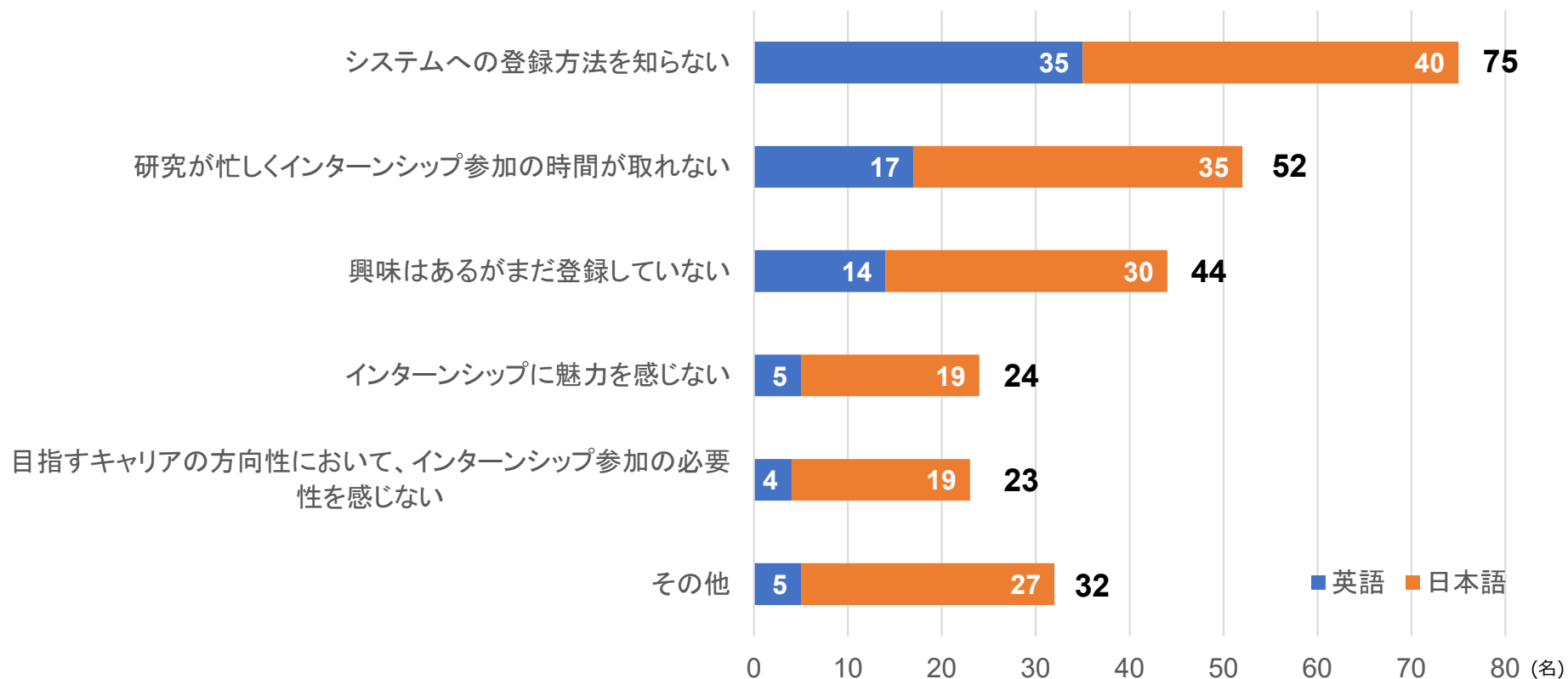
ジョブ型研究インターンシップのマッチングシステムに登録しましたか？

また、実際にインターンシップに応募しましたか？



システムに登録していない方へ

【問2】 システムに登録していない理由として当てはまるものにチェックを入れてください。（複数回答可）

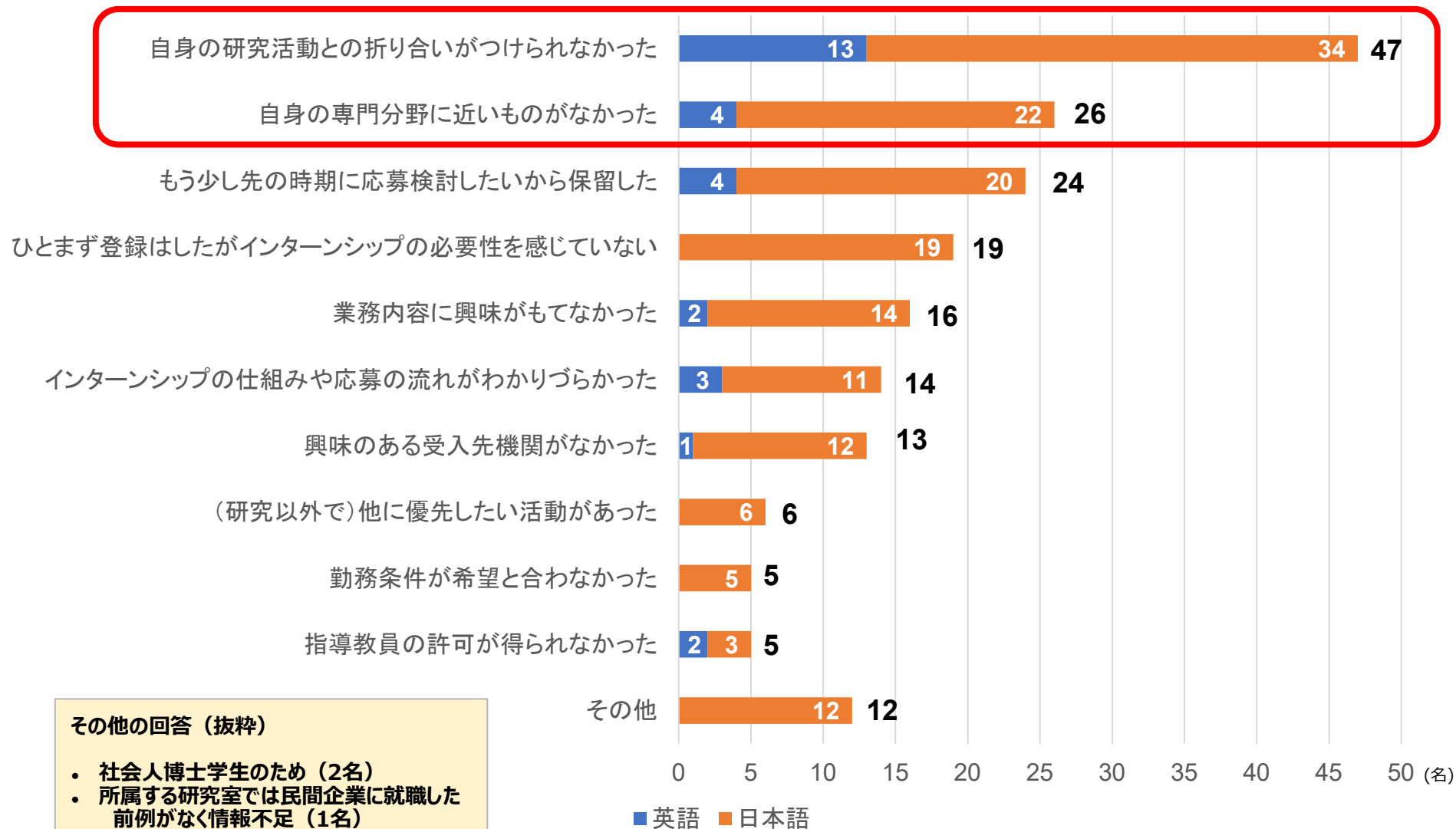


その他の回答（抜粋）

- 社会人博士学生のため（13名）
- 存在を知らなかった（9名）
- 年齢的な理由（5名）

システムに登録したが応募していない方へ

【問3】 応募しなかった理由について当てはまるものを全て選択してください。



その他の回答 (抜粋)

- ・ 社会人博士学生のため (2名)
- ・ 所属する研究室では民間企業に就職した前例がなく情報不足 (1名)
- ・ 研究との両立が困難 (2名)

システムに登録したが応募していない方へ

【問4】 問3で選んだ回答についてのより具体的なご意見や、「どのように改善されれば応募したいか」について、自由にご意見をご記入ください。

(Part 1) (※事務局にて一部抜粋)

＜指導教員からの許可＞

- ・ **指導教員の許可を得るステップが障壁に感じた。** 自分の裁量で自由に応募できるシステムなら応募しやすいと思った。
- ・ **指導教員からの許可が得られやすい研究室環境であれば応募したと思う。** 学生だけでなく、**教員側にもシステムをアピール**していただきたい。

＜掲載されている企業・募集＞

- ・ **製薬企業がもっと増えれば検討したかもしれない。** また博士の就活の時期が早く、早くに内定をもらったので、インターンシップに行く必要が無かった。
- ・ 自分の専門である半導体分野ではゆるい条件でも3社ほどしか表示されず、研究領域と合致するものはなかった。
- ・ ①インターン数の充実：**9月ごろにシステムに登録したが2月になった今もいっこうにインターンの数が増えていない。時期の分散化や興味にあったインターンを提供するにはそもそも数を増やすしかないはず。**
②企業側・学生側双方への旨味がない：インターンシップの結果を共有できるとのことだが加盟企業が少なく意味があるとは思えない。2週間以上の長いインターンをする意味があるのか。企業が内々定をだせるようにする、また、加盟企業や経団連に働きかけて博士人材に対する評価方法の画一化しインターンシップをした博士学生を他企業が評価できるようにすべき。

システムに登録したが応募していない方へ

【問4】 問3で選んだ回答についてのより具体的なご意見や、「どのように改善されれば応募したいか」について、自由にご意見をご記入ください。

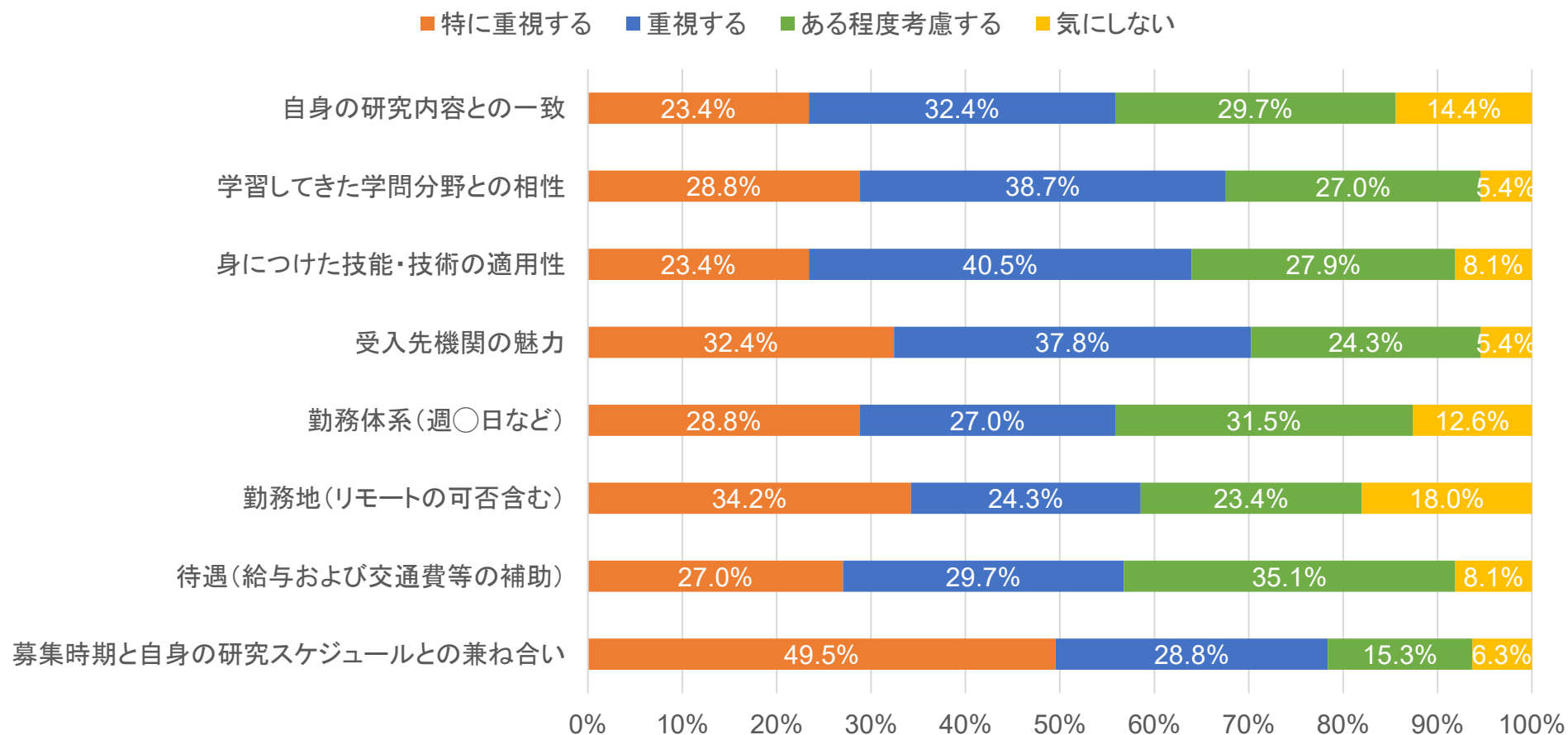
(Part 2) (※事務局で一部抜粋)

<研究との兼ね合い・スケジュール>

- 査読付き論文を3報求められる中で、**インターンシップの重要性を認識していても論文よりインターンシップを優先する決断はなかなかできない。**
- **長期の募集が多いように感じました。自身の研究遂行に支障が出ると感じ、応募を見送りました。1週間程度のものが多ければ応募しやすかったと感じる。**
- 説明会に参加しようとしたが、平日開催だったため他の予定と被り参加できなかった。休日開催にしたり(参加登録者のみに)後日録画を共有したり工夫していただけると助かる。
- **自分が通う大学と近いほうが研究との折り合いをつけやすいと思うが、そのような条件の受け入れ先が少ないと感じた。**
- 博士課程学生のうち特に論文が1年次までに出せておらず、常に多忙であったことや、ライフサイエンス分野における長期にわたる実験の影響で、**ある程度長期間の参加を強いられるジョブ型インターンシップに参加するメリットがなかった。**分野的な問題や個々人の研究進捗の問題があり、活用に至らないため、もし企業での研究者としての働き方を推進するのであれば別な短期のシステムのほうが適していると考えます。
- 日々の研究活動で手がいっぱい、博士課程卒業後の進路をしっかりと考える余裕がありませんでした。**博士後期課程の1年次に講義などの一環として、インターンについて取り上げるなどしても良いかと思った。**
- 卒業が確定してから参加したいと考えたから。
- **D1の時点で知っていれば活用したと思う。**
- 研究インターンシップに参加することは自分にとって大きなプラスになると思うが、**博士論文を完成させて卒業するための時間を大幅に削って大丈夫なのかを不安に感じている。**

（応募有無に関わらず）システムに登録した方へ

【問5】 応募先を選択する際、以下のいくつかの基準についてどの程度重要視するかを4段階で入力してください。



(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

【問6】 問5で重視すると回答した項目が具体的にどのような内容であれば応募したいと思いますか。また、問5の選択肢以外に重視する事項があれば教えてください。(Part 1) (※事務局で一部抜粋)

<研究分野や専門性>

- 興味のある分野とマッチングするような題材(インターンシップ先)があれば応募したい。
- 大学では実施が難しい研究という意味で、自身の研究を実応用できる内容であると魅力を感じます。
- 自身の研究内容との一致...政治学系、特に、**行政学、公共政策学、さらには、防災行政、危機管理行政という、社会を研究する分野であれば応募したい。**
- 自身の専門分野はかなりマイナーであるため、自身の専門性に関連した業務以外についても様々な内容について取り組み、勉強させていただけるような環境であれば応募したいと思う。
- 自身の研究分野、身につけている実験技能が受け入れ先の研究にどれだけ通用するか、応用可能かを知りたいので、ある程度自身のそれらと共通した環境下でインターンシップに臨みたい。

<研究との兼ね合い・スケジュール>

- **学会などへの参加を考えると、候補として考えることのできないインターンの時期も多くあり、自身の研究スケジュールとインターンシップを両立することが難しいと感じました。**
- 情報学における博士後期課程は平均的な卒業年数が比較的短いため、**専門領域からはずれた分野のインターンシップを取ってしまうと研究が遅滞し卒業できないリスクがある。**少なくとも、自分の専門と同じツールを使うなど、最低限自分の研究に活かせるインターン内容であってほしい。
- **地方に住んでいるため、自身の研究を一時的に停止しなければいけないかを非常に重視しています。**

（応募有無に関わらず）システムに登録した方へ

【問6】 問5で重視すると回答した項目が具体的にどのような内容であれば応募したいと思いますか。また、問5の選択肢以外に重視する事項があれば教えてください。（Part 2）（※事務局で一部抜粋）

<勤務条件>

- リモート勤務ができると良い。
- 学位取得のための研究にマッチし、かつ、研究に支障がない時間、距離での勤務であること。
- 将来の進路の参考にもしたいのでその機関の労働環境が魅力的かを考慮している。
- 待遇（給与および交通費等の補助）...給与は妥当な範囲であり、そして、交通費等は経費精算できれば応募したい。
- 将来の博論に無理なく組み込めるテーマかつ、同年代の社員と比して同等の給与水準が望ましい。

<インターンシップの内容>

- **NPOなどで、立ち上げなどを学ぶことができるのであれば良かった**かもしれません。
- 以下であれば魅力的。①自身の研究に支障がない日数、期間である、②博士課程に対しての待遇（修士卒以上としての給与）、③自分の研究技能・知識をより深化させるor博士課程人材としての調査スキルや複数技能をあわせた業務内容。Q8の選択肢以外に重視する事項としては、最優先事項であるが、インターンシップを経て内々定がでる、他企業に自身のスキルを示せることが必要だろう。私が思うインターンシップの意義は、博士人材が社会の要請を理解する、社会に博士人材をアピールする、内定がでやすくなるの3つだと思っているので、インターンシップをして社会がわかりましたね、だけではアルバイトでしかないと思う。
- **自分の研究内容が社会に役立つことを感じられる**ような内容。

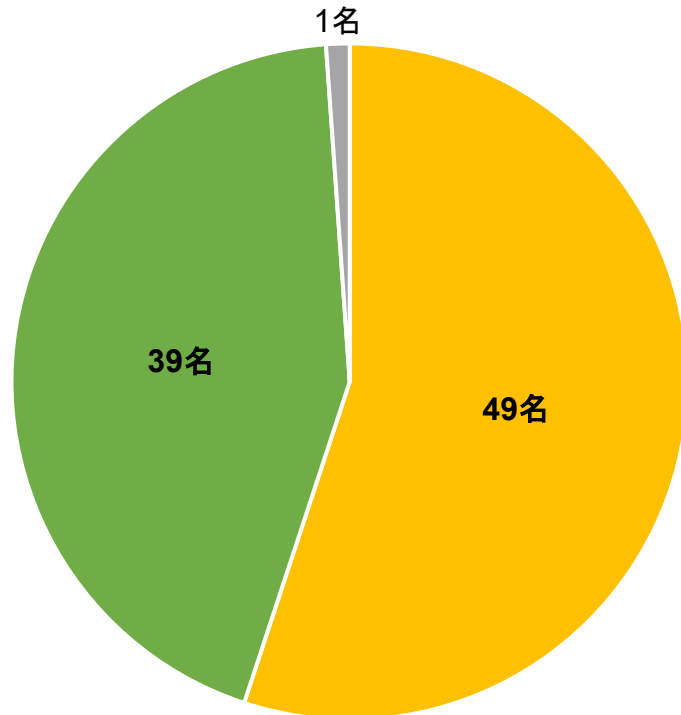
<その他>

- 現段階では、大学教員を希望しているため、一般企業への就職は考えていない。しかし、就職先では、これまで自身が実施してきた研究が継続して行えるか、また、新しく自分が参加したいと思える、自分の成長にも繋がる研究内容があるかなどを考慮して就職先を決めたいと考えている。また、勤務体系においても週休2日が取れる就職先を希望する。

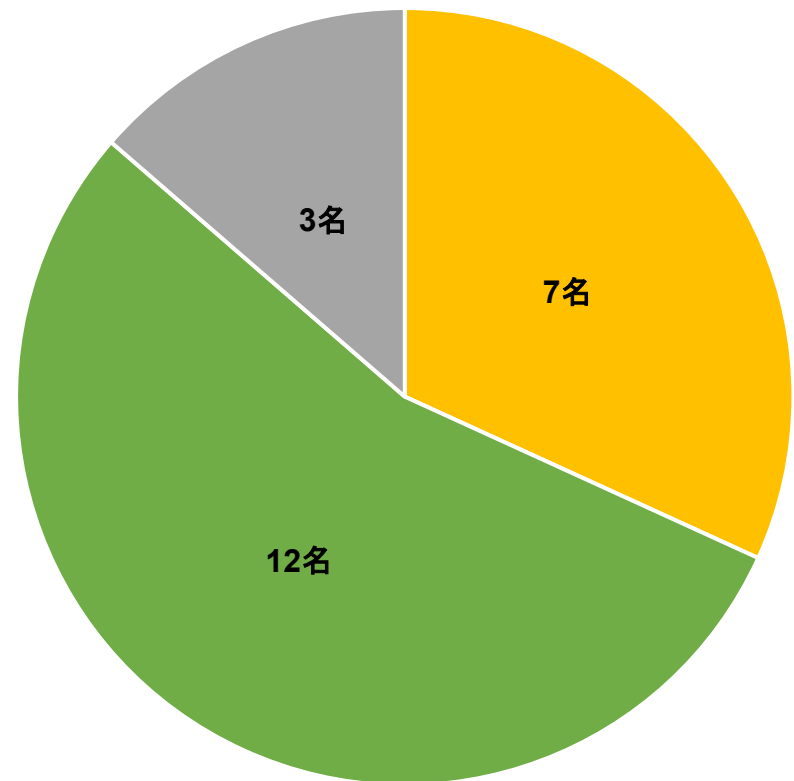
(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

【問7-1】ジョブ型研究インターンシップは2か月以上という期間の定めがありますが、これについてどう思いますか。

日本語



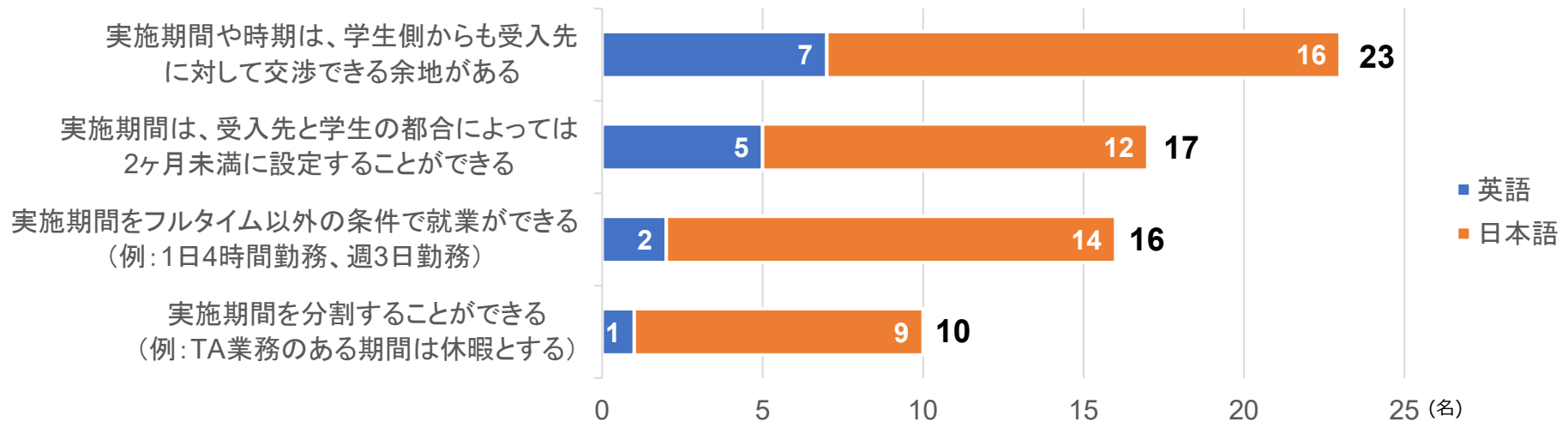
英語



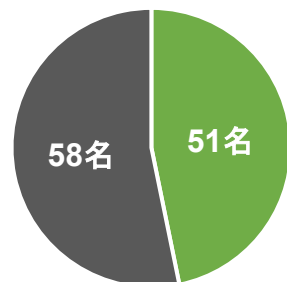
- 長い
- ちょうどよい
- 短い

(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

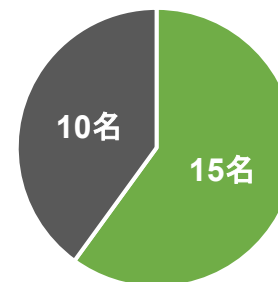
【問7-2】ジョブ型研究インターンシップの実施期間に関して知っていたものを教えてください。



日本語



英語

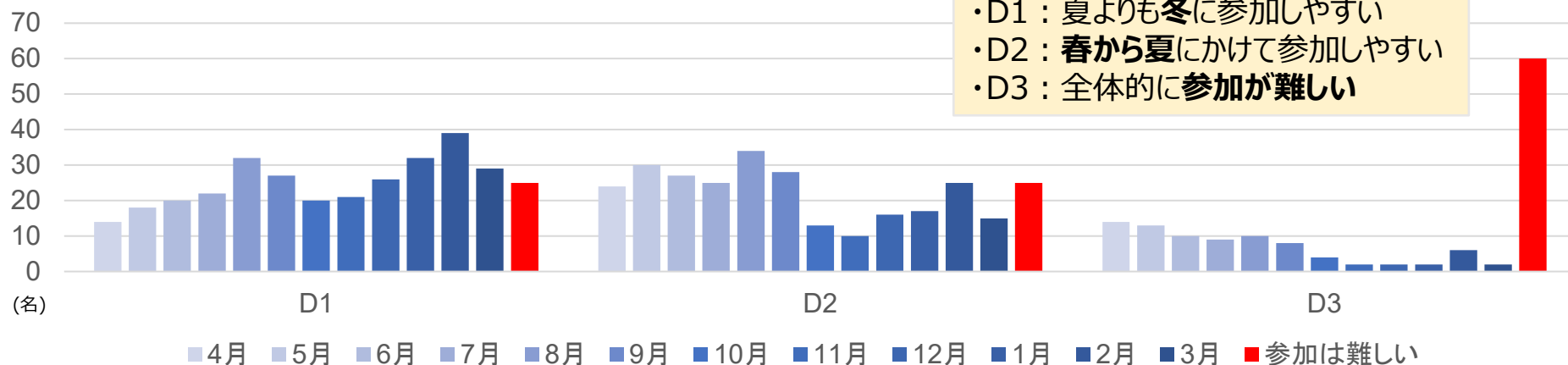


■ いずれかを知っていた
■ 全て知らなかった

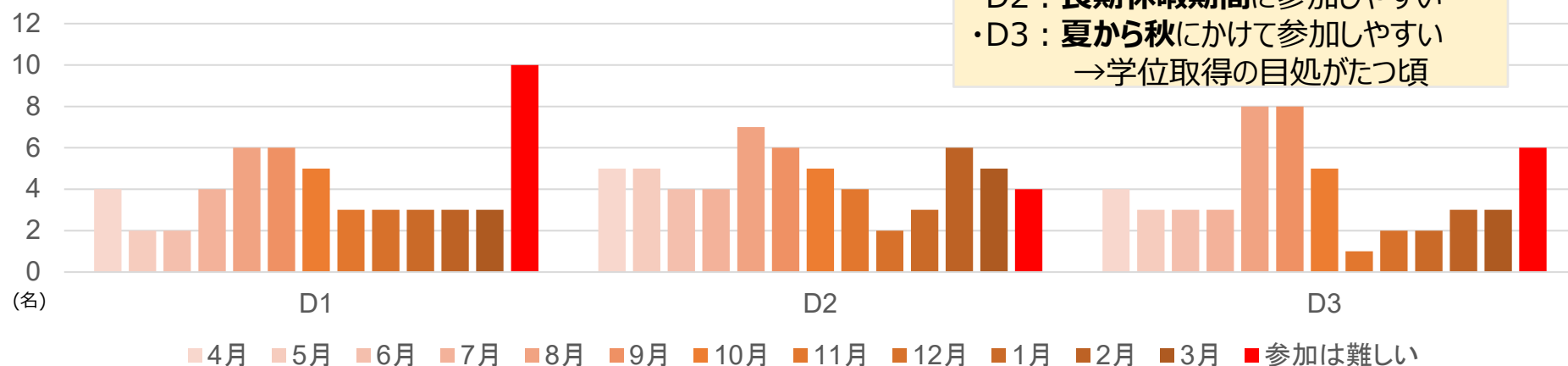
(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

【問 8】 2ヶ月間のインターンシップに参加しやすい時期を教えてください。
(回答者の学年によらずD1～D3それぞれについて回答)

日本語



英語



(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

【問9】 2ヶ月という実施期間や参加可能な時期について、ご意見や補足事項があれば教えてください。 (※記述式、事務局で一部抜粋)

＜実施期間について＞

- 博士課程は学位論文の投稿が必要になるため、1ヶ月以上あけることで論文投稿に支障が出る不安要素が強い。
- 都合によって2ヶ月より短くできるとあっても、実際にコンタクトを取らないと調整ができないのが手間である。
- やはり2ヶ月間自分の論文から離れる決断は大変難しい。
- **生物飼育系の研究では、長期間研究を止めることは致命的**に感じる。
- 参加している間は実験が出来なくなる可能性があるので、学会や論文投稿の準備が難しくなるのではないかと思います。
- 研究への影響を考えると2ヶ月は少し長いような印象を持っている。

「2ヶ月以上」は
長い

- 確かに**実際の業務に従事する**という点では学部生や修士課程に比べ技能が深化している博士課程にとっては2ヶ月はちょうどいい。しかし、繰り返しになるが**インターンシップを経て学生・企業双方にメリットがなければ2ヶ月は長すぎる**。
- 「2ヶ月(基準)」で問題ないと考えています。そして、学生と受け入れ先で合意形成を図ればよろしいのではないのでしょうか。

「2ヶ月以上」は
(条件付きで)
適切である

(応募有無に関わらず) システムに登録した方へ

【問9】 2ヶ月という実施期間や参加可能な時期について、ご意見や補足事項があれば教えてください。 (※記述式、事務局で一部抜粋)

＜参加可能な時期について＞

- 授業のカリキュラム以外の期間であれば参加可能。
- 長期休暇以外の期間では研究室内で参加必須となる研究会などが開催されるため、フルタイムのインターンシップは難しいように思う。
- 生物飼育系の研究では、長期間研究を止めることは致命的に感じる。(再掲)
- 森林に調査に行けない冬の期間が最も参加しやすいと思う。
- 参加している間は実験が出来なくなる可能性があるので、学会や論文投稿の準備が難しくなるのではないかと思う。(再掲)
- 後輩をみていて、D1では博士の研究を始めたてで時期尚早に感じられ、D2では通常の就職活動が本格化するため、参加をためらう人もいると、感じた。全企業がD1後期にインターンシップがあるなど、期間が明確だと参加を考えやすくなるかもしれない。
- D3は論文を出さないといけないので厳しいと思う。D2は6月初めまで学振、その後すぐに就活が始まり、人によっては長引くので厳しいと思う。

長期休暇が前提

生物飼育、野外調査、
実験など長期にわたり
止められない研究
活動がある

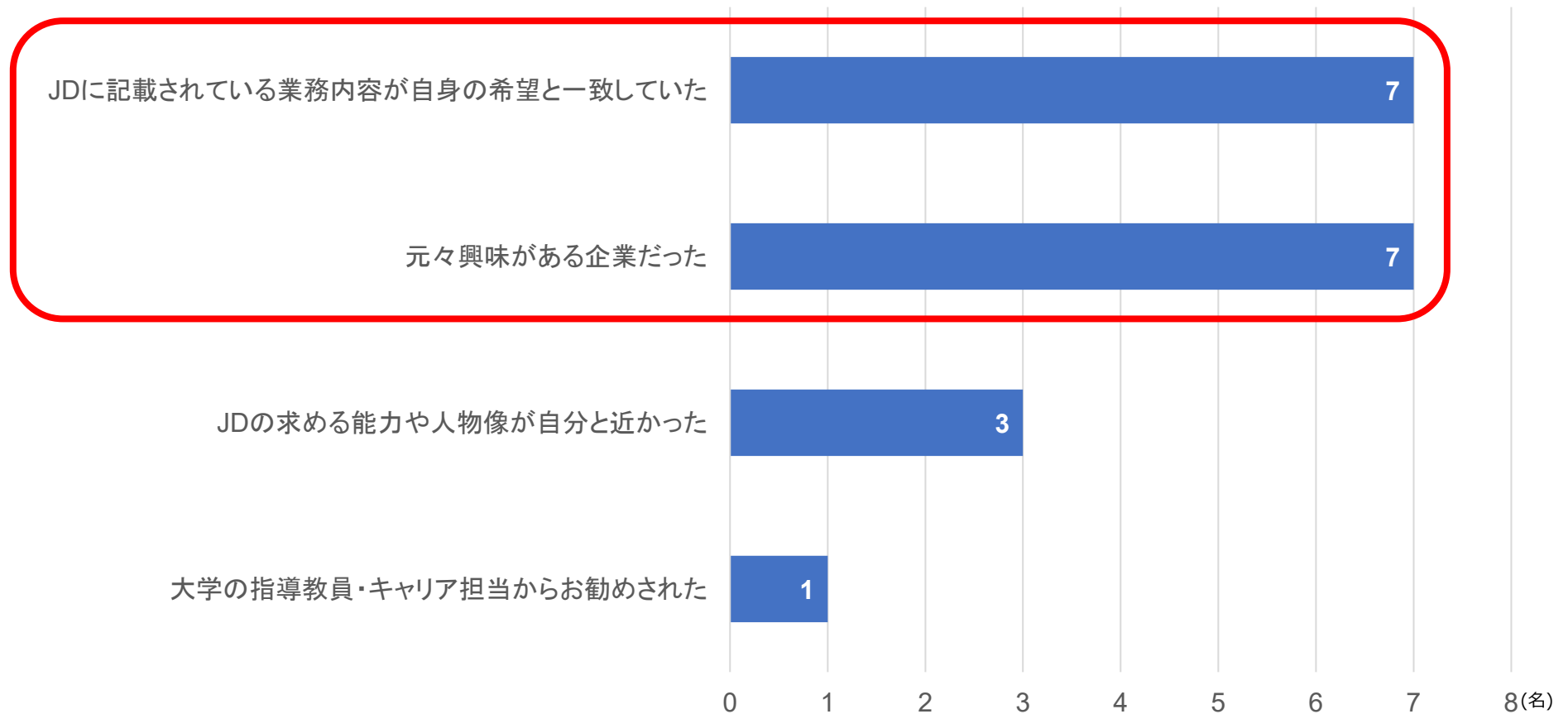
＜その他＞

- 10月入学です。
- 留学など、他のキャリア形成に向けた取り組みとの兼ね合いが難しい。

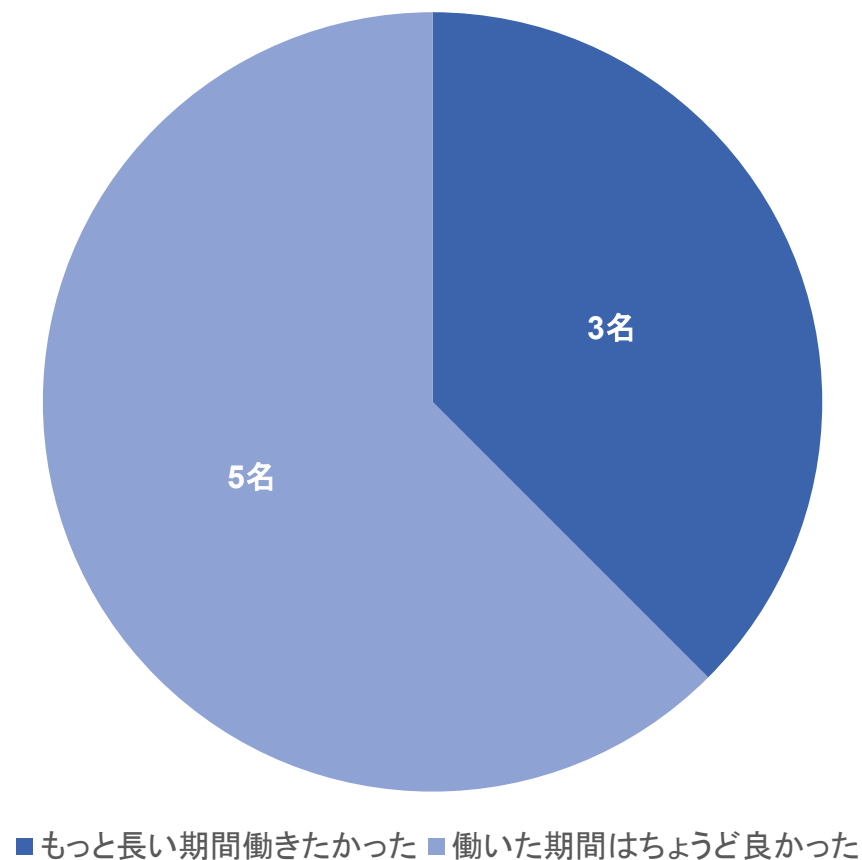
2024年度実施後アンケート結果概要

- 対象者：ジョブ型研究インターンシップを実施した博士学生
- 回答者数：8件
- 実施形式：オンライン
- 実施者：ジョブ型研究インターンシップ事務局（株式会社アカリク）

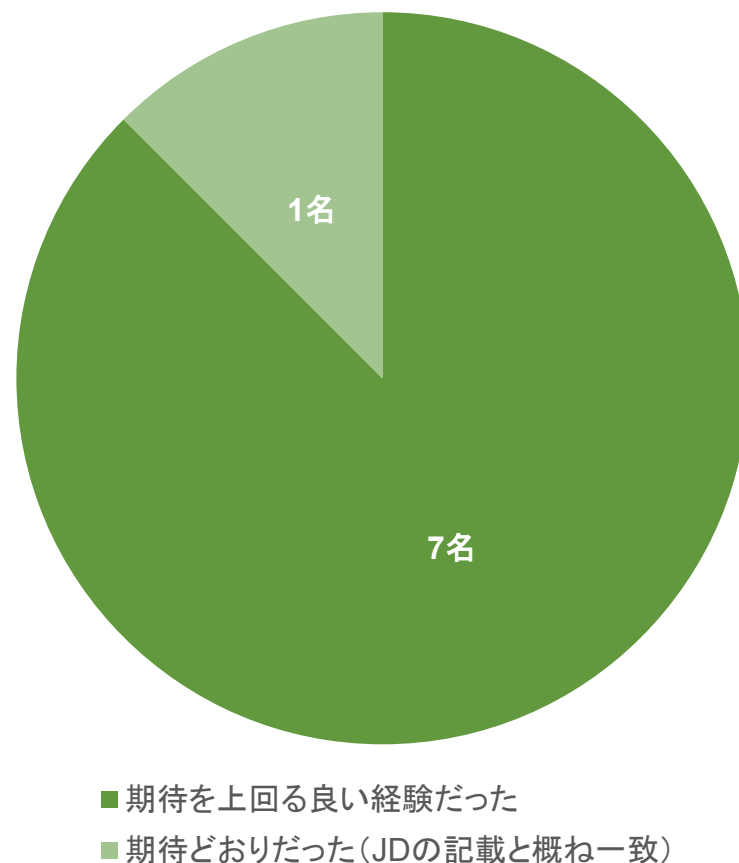
【問 1】今回応募した企業はどんな理由で選んだか教えてください。
(複数回答可能)



【問2】 インターンシップの期間
について教えてください。



【問3】 受入先でのインターンシップ
全体の感想について教えてください。



【問4】前問の回答を選んだ理由を教えてください。 (記述式、事務局で一部抜粋)

- これまでの研究生活で身につけてきた**専門性や経験をどのように企業で活かせるのか、また自身のさらに伸ばすべき課題を明確化**できる貴重な機会だった。
- 興味ある分野が企業で実際にどう使われているか分かったのがよかった。
- 社員さんとの議論、社内ミーティングを含め実際の開発現場に密に携わることができたため。
- **企業研究者としての考え方や価値観に触れられた**から。
- 実際の業務を、実際にそこに正社員として勤務しているような形で取り組ませていただくことができたためです。業務以外の部分でも社員の方とのコミュニケーションを通じ、食事を共にさせていただくなどする中で、会社や働き方に関してのお話も聞かせていただくことができました。実際に社員としての働き方を学んだり、会社についての理解が深まるだけではなく、今後どのような働き方をすることが自分にとって良いのだろうかということや、私の中で**今後働くことが人生の中でどんな位置付けになるのかを考えさせられるとても良い経験**でした。
- インターンシップのテーマが自分の研究テーマにも強く関連し、**様々な手法や解析ツールの機能を身につけることができた**。また、企業の研究者と比較して自分の能力が至らないことを知り、今後のモチベーションが上がった。
- 大学院での研究活動を通して得られた知識や経験を多面的な視点から活用する機会が多々あり、自身のスキルに磨きをかけることにつながったため。また、自身の知識や経験をどのように活かすことができるのかについて博士課程の在籍期間中に知ることで、**キャリアパスを組み立てる判断材料**にもなった。

企業でも通用するか
試すことができた

社員との交流から
得るものがあった

今後のキャリア観に
良い影響があった

【問5】 インターンを通して得られた学び・気づきを教えてください。
(記述式、事務局で一部抜粋)

- 自身の経験やスキルは製薬企業でも活かせる部分があるということ、一方でテーマのマネジメント力がもっと伸ばすべき課題だと感じた。
- チームとして働く際の共通のビジョンを持つための議論、理解を深めるための議論。
- ウェットの実験を主体とするような業務であっても、プログラミング技術が活かせる機会が多いこと。また、生成AIをどのように活用して業務効率化を図るかについては、私の想像よりも活発に議論がなされていた。
- 博士人材は専門分野だけでなく、幅広いスキルが求められていることを学んだ。

企業で求められる
スキルや経験の幅広さ

- 環境面では、企業では時間の制約が大きいと感じた。
- スケジュール管理と発表スキルです。

時間の使い方・管理

- 全体を通じて感じたことは、私が想像していたよりも大学で行われている研究に近い内容で業務を行うことができたことです。ただし、秘密保持の観点では大学とは大きく異なる点もあり、企業ならではの要素も感じました。

大学と企業の研究の
近い点・異なる点